

2024 年度第 2 回競争契約監視委員会 議事概要

日時：2024 年 11 月 22 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

場所：成田国際空港株式会社 東京事務所

出席：（委 員）日本大学大学院法学研究科 藤村和夫講師 （委員長）
中央大学研究開発機構 柴山知也機構教授（委員長代理）
神奈川大学 細田孝一名誉教授
宇都宮大学地域デザイン科学部 藤原浩己学部長
（N A A）整備部、機能強化整備部、施設部、地域共生部、オペレーションセンター、
調達部、法務コンプライアンス部
※ 事務局：法務コンプライアンス部、調達部

議事：

1. 開会の挨拶

2. 契約状況等

調達部より、契約状況、随意契約理由及び取引停止措置について説明

	委員からの質問・意見	N A A からの回答
1	応募 5 者のうち 4 者が辞退したような案件があったので、健全な競争が行われていたかという点について確認した。応募者の行動の時間的な経過にも注意すると良い。	承知した。
2	設備更新工事を既設メーカーと随意契約している案件については、競争に付すのが望ましいと考える。設置工事時の競争の時点で、更新工事は随意契約を前提としているのか。	部分更新工事の場合は随意契約、全体更新工事の場合は競争に付すと考えている。設置工事時ではなく設置工事後に保守を行うグループ会社の協力を得て、中長期の更新計画を作成している。

3. 個別契約について

調達部より、以下 4 件の概要及び契約方式について説明

■ 3PTB3 階 L3125-2・L3126 入居前整備工事(電気)

	委員からの質問・意見	N A A からの回答
1	地域共生型で、地元企業 2 者のみの応募となったが、地元以外の企業に不利に働いたからなのか、今後注意されたい。	承知した。

■ 空調自動制御設備更新工事(NAA 本社・情通・輸入共同上屋増築棟)

	委員からの質問・意見	N A Aからの回答
1	実施手順の妥当性で得点とならなかった。手順のとおり、実際の工事も行われることになるのか。	受注者と協議を行い、適切な手順となるように、かつ契約金額の範囲内での対応を前提に施工計画の変更を指導する。

■ C滑走路北側トンネル整備工事

	委員からの質問・意見	N A Aからの回答
1	施工体制評価型における VE 提案の点数が、各者とも 10 点満点だったが、コスト削減額に応じて、より差がつくようにしたほうが良いのではないかと。応募者の書類作成等に係る負担も大きく、談合の懸念等もあるのではないかと。	各者とも技術力が高く、高度な提案だったことが高得点につながったものと考え。目的物を変更しないことを原則とした VE 提案としたため、大幅な価格低減は難しいと考え、1%以上のコスト削減額で満点となるようにした。施工体制評価型の初の案件であったが、応募者の負担の点も含め、今後案件を重ねて改良してまいりたい。

■ ヒアリ等の生息調査 単価契約(2024)

■ 更なる機能強化に係る環境調査 2024(猛禽類)

	委員からの質問・意見	N A Aからの回答
1	いずれの案件においても同じ受注者が低見積で受注しているが、この受注者の寡占状態ということなのか。他の発注機関の案件の履行状況について、ヒアリングするなどして確認しているか。	直接ヒアリングはしていないが、他の機関でも低見積でこの受注者が受注している案件が確認されており、履行状況の問題も生じていないと考える。

■ 工事用仮設道路整備工事

■ A 滑走路北側 HB 整備/A1・A 誘導路改修/K・C 誘導路他補修舗装工事

	委員からの質問・意見	N A Aからの回答
1	辞退が 4 者と多かった案件だが、とりあえず応募するというのが、本件のような舗	応募後に仕様書等で工事の難易度等の詳細、他の工事との兼ね合いも勘案し、結果

	装工事の業界における応募者の行動パターンなのだろうか。異変が起こった時に気づくことができるように、業界の傾向を把握しておく方が良いのではないか。	的に辞退となることもあると考える。今後、業界の傾向の把握にも努めてまいりたい。
2	本件の他にも、低見積の理由について、受注意欲の高さといったこと等、明確に記載されていない案件が見受けられるので、適切に把握するようにされたい。	承知した。受注者にはヒアリングも行い状況を確認しているが、今後は適切な記載となっているか留意してまいりたい。

■ 無線施設用電源設備(16RLOC)更新工事

	委員からの質問・意見	N A Aからの回答
1	契約制限価格の設定にあたっては、市場動向を適切に反映するようにされたい。	本件は、急激な価格高騰に追いついていない部分があり、査定率についても見直しが必要となった。今後は市場の動向をよく把握した上で対応してまいりたい。

4. 全体を通しての意見

	委員からの質問・意見	N A Aからの回答
1	積算業務の見直しとして試行している見積活用方式について、参考見積と基準積算の差が大きかった案件もあり、また、契約制限価格の事前公表の是非についても賛否があるとのことなので、今後検討されたい。	案件の試行を重ねながら関係者の意見も整理し、本格導入に向けて検討してまいりたい。

	委員長からの講評
1	本日、審議した案件については、談合が疑われる案件がないという意味で適正であったと判断する。

5. 次回開催日程について

次回の委員会は、2025年6月11日（水） 10時開催予定

※案件抽出については細田委員が担当

6. 閉会の挨拶

以上